

# 正当な会計基準とは何か？

資産デフレ下の企業決算の評価を巡って、時価会計や減損会計の妥当性についての議論がクローズアップされている。企業会計基準委員は一日、既定方針を確認したが、あらかじめなんのため、だれのための会計基準かを冷静に追究するときではないか。



## 企業会計を巡る最近の話題と争点

### 「投資家にとっての情報価値」をベースにした議論が重要

時価評価や減損会計の適用について今年三月、一時凍結や導入先送り論などが突如浮上した。その一方、国際的には時価評価の拡大が繰り返し話題になっている。企業会計に対する関心は高まって、本当の争点はどこにあるかはわかりにくい。会計基準設定主体である「企業会計基準委員会」の齋藤静樹委員長に、最近の話題と争点を解説してもらった。（編集部）



企業会計基準委員会 委員長  
（明治学院大学 教授）  
齋藤 静樹

### 会計基準の国際化と設定主体

まず、企業会計基準委員会の成り立ちと役割について述べる

ことから始めよう。  
従来、日本の会計基準は金融庁の企業会計審議会が作成してきた。それが〇一年七月から、民間の組織である企業会計基準委員会に委ねられた。直接の契機は、国際的な会計基準の動向だ。〇五年のEU市場統合を前に、ヨーロッパ諸国が共通の会計基準に向けて動き出した。〇

一年一月にそれまでのIASB（国際会計基準委員会）を改組してIASB（国際会計基準審議会）がつくられ、そこを舞台に日米も含めて会計基準の統合